

令和元年度 学校評価結果公表シート

学校法人 廣瀬学園
認定こども園 名張よさみ幼稚園

当園では令和元年度の幼保連携認定こども園学校評価として、教職員自己評価及び、学校関係者評価を実施致しました。教職員自己評価においては、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園経営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直し、更なる自己研鑽を目指す非常によい機会となりました。

今年度の学校評価結果を活かし、幼保連携こども園として更なる教育保育の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育目標

「清く・正しく・たくましく」 自らの力で行動できる幼児を育成する

教育方針

「自立心・自主性の育成」

教育の特徴

1. 強い身体を育てる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. 自然や社会の身近な環境に親しむ。(栽培や飼育活動、行事などを通して)
3. 人とかかわる力を養う。(異年齢交流、地域交流を通じて)
4. 豊かな感性と想像力を養う。(数と言葉の遊び、音楽リズム、造形活動を通して)
5. 「6つの心」が自然と身に付くように育てる。(社会、言葉を通して)

・「おはようございます」という	明るい心
・「はい」という	素直な心
・「すみません」という	反省の心
・「わたしがします」という	積極的な心
・「ありがとうございます」という	感謝の心
・「おかげさまで」という	謙虚な心

II. 今年度の重点目標

自己点検、自己評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設や教育内容の改善に主体的に取り組んでいくための姿勢を身につける。

幼保連携型認定こども園として、0歳から就学前までの発達や学びの連続性を考慮した教育・保育を展開し、自ら考え行動し表現できる子どもの育成に努める。そのために、子どもの主体的な活動や多様な体験を保障し、友だちや保育者とのやりとりなどで自らの考えを広げ、気づきや工夫する体験が次の体験と結びついていくような環境を整える。また、自園給食を生かした食育を保育に積極的に取り入れ、幼児期における食の重要性を考慮した上で、教育内容を深めていくように努める。また、新型コロナウイルス感染予防を意識した新しい園生活スタイル、保育内容の工夫に努める。

Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目	具体的確認項目	評価	取り組み状況
1 教育方針・目標	園の教育方針や目標、園長の思い等を共有することができているか。 また、その為にどのような取り組みがなされているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育保育方針や目標に基づいて、教育保育の実践ができるよう、職員会議や園内研修を重ねている。 (毎日の朝礼、終礼、職員会議、リーダー会議、学年会議など) その中で、職員ひとり一人が教育・保育の在り方を振り返り課題を見つけ、修正する意識を高めている。 ・「子ども理解」という観点から、継続的に子どもの遊びを観察し、職員研修を行い、学びと共通理解の機会を設けている。 保育者の環境構成の工夫、子ども一人ひとりへの支援の在り方等学び合い、担任と他の職員の連携を重要視している。 ・各行事ごとに会議を持ち、常に園の方針と、その行事を通して、子どもの何を育てたいかの思いを中心に、変化する今の社会や保護者の考えにも適応し、実践している。
2 指導計画の作成と評価	保育カリキュラムの評価・反省を行い、次の保育と計画に活かせるように取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園教育・保育要領、並びに園の教育保育過程を基盤とし、乳幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、主体的な学びの実現を念頭に、カリキュラムを作成している。 ・日案、週案、月案は、学年ごとに会議を行い作成し、教職員間で共通理解を図っている。 ・日誌については、保育の振り返りの中でも、今後の課題をしっかりと見据え次の保育へ繋げるよう取り組んでいる。 ・保育内容の振り返りや、疑問については、職員会議において話し合って討論している。 週案作成時には、保育内容や自由保育と設定保育のバランスを考え、遊びの継続を配慮した計画を作成している。
3 教育環境の構成	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができているか。 また、その為にどのような取り組みを行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園という環境を生かし、幼児・乳児が、お互いの保育室を自由に行き来できるようにしている。 ・「おひさまデー」には、クラス関係なく、子どもと職員が戸外で遊び、異年齢と関わるからこそ生まれる遊びを大切にしながら、職員も仲立ちとなり、その交流の中で育つ思いやりや、異年齢の子どもの心の変化に気づくようにしている。 ・異年齢交流(スマイルデー)の実践を通し、一年間同じグループで過ごすことで、関係も深まりやすい。 ・環境については、子どもの遊びが継続・発展するようなきっかけを作る言葉がけや、子どもからの要求を見逃さず、適宜対応するようにしている。

評価項目	具体的確認項目	評価	取り組み状況
4 指導と関わり	幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することができる環境を整えているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽や、体育遊びなど身体全体を使った動的な遊びと造形・絵画・茶道などの静的活動の保育を総合的に実践している。 ・子どもの自由遊びでの興味・関心を取り上げ、それに関連する保育を一斉保育に取り入れることも大切にしている。 ・個々の能力に応じ、無理なく、一人ひとりが主体的に活動できるよう、一人ひとりのペースを理解した上で関わり、援助している。
5 研修・研究への取り組み	研修・研究への取り組みが十分に行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントの観点から、職員の教育・保育への振り返りの着眼点がどのように向上していくかを、副園長、主任が把握しながら、一人ひとりの職員に次の課題を見出せるように、指導している。 ・公開保育を年間を通じて実施している。保育者の振り返りだけに留まらず、教材研究としてその日の保育に対して、様々な意見交換をし、保育の工夫を学ぶようにしている。また、公開保育で、子どもの様子に着目し、子どもの遊びや行動の理解を読み取り、一人ひとりへの支援についても話し合っている。
6 安全管理体制の整備	安全管理の為の体制は十分に整っているか。 また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来園者への園内立入証の携帯を義務付けている。 ・避難訓練を年12回、防犯研修を実施し、災害や不審者侵入時に備えている。 ・登園、降園時間以外の正門の施錠、登園・降園の際玄関に職員を配置し、保護者と園児の受け渡しを安全に行なえるように配慮している。 ・正門付近の防犯カメラの設置、警備会社との連携をはかっている。 ・地域の緊急情報にも速やかに対応し、保護者にメール配信できるシステムを整備している。 ・食物アレルギーについては、栄養士と保護者との面談を徹底し、アレルギーの子どもにも安心して給食を提供している。 ・保育室や遊具の点検は毎日行い、安全チェック表に記入し、不備は即対応するようにしている。 ・災害時の水・食料、発電機等を保管している。

評価項目	具体的確認項目	評価	取り組み状況
7 衛生管理体制の整備	衛生管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内や、玄関やテラスの消毒を行っている。 ・登園、降園時の視診や園児の様子に応じ検温を実施している。 ・保育室には、空気清浄機を設置し、園児の健康管理の一助としている。 ・園内に消毒を設置し、外部からの来園者にも積極的に使用してもらっている。 ・来園者全てに、玄関での非接触体温計での検温を行なっている。 ・特に、乳児の玩具やトイレの消毒を毎日徹底している。 ・嘔吐の処理のマニュアルの確認と徹底を行い共通理解している。嘔吐した場合に、即座に処置できるよう、嘔吐処理グッズを、各保育室に設置している。 ・給食など食品を扱う時は、手袋・マスク・エプロンを着用し、衛生面に注意を払っている。
8 地域の人々、自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・田植えや、稲刈りの仕方を地域の方から学び、体験させてもらう事でお米の生長に興味をもち、収穫した米を給食で食べることで、身近に食育を実践している。 ・各クラスの花壇や畑に花や野菜を植え、身近に自然に触れその不思議さ等も感じられる体験をしている。 ・地域の小学校へ遊びに行かせてもらうなど、幼小の交流を持ったり、中学生の職場体験を受け入れ、協力している。

【評価の基準】

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	取り組みはされているが、十分ではない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1 指導計画の作成と評価	<p>近年の、乳幼児を取り巻く、社会情勢や、環境、特に保護者の子育ての環境や家庭教育の現状を踏まえ、今、園の教育・保育に求められている事を意識した上で指導計画にも盛り込む必要がある。そのため、保育内容を工夫していく必要があるが、常に、育てたい姿を念頭に置き、指導計画を作成していくことを職員間で共通理解を深めていきたい。また、「自ら考える力」を養い、主体性を育ていけるような保育内容の研究が必要である。 また、その保育内容を園全体で継続し、具体的指導計画に表していけるようにしたい。特別な支援を必要とする園児に対する個別の指導計画について関係機関やコーディネーター、担任等園全体で連携し作成し、一人ひとりに無理なく支援している。さらに、専門知識を持ちながら、「子ども理解」という観点と、一人ひとりの育ちを支援すると共に、保護者支援にも努めていきたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止を念頭に、新しい生活様式を踏まえた保育形式については、変化してはならない事と、工夫し変化しなければならない事を園全体で検討しながら、保育や行事、園生活スタイルに反映させるよう、指導計画にも盛り込んでいく。</p>
--------------	--

2	<p>研修・研究への 取り組み</p>	<p>公開保育・園内研修の在り方を見直し、職員が自ら学び、職員が講師となり、発信していく形式にも取り組んでいるので継続する。</p> <p>保育内容はもちろんのこと、保育のねらいや、子ども理解の職員の視点が重要で、職員の意識改革をしていきたい。主体的に学ぶ姿勢が、さらに資質向上に繋がると考えている。</p>
3	<p>安全管理体制の 整備</p>	<p>毎月の避難訓練と職員の消火訓練、普通救命講習は継続していく。</p> <p>災害時の保護者への園児の引き渡しについても、保護者への周知の徹底と災害時の連携体制をさらに、整えていきたい。</p> <p>避難訓練内容については、大型地震などにも備えた、地域と連携した訓練も計画したい。</p> <p>また、備蓄の量を増やし、災害時に使用できるトランシーバー等も整備したい。</p>
4	<p>地域との連携</p>	<p>園からの情報提供や保護者や保護者や地域の方との情報交換、園行事への参加の機会を増やし、園の教育・保育へに対する理解を深めてもらえるよう発信していきたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑みながら、地域の施設等への訪問や関わりも、工夫しながら実施していきたい。</p>

V. 学校関係者の評価

上記の通り、適切に実施されていると判断できる。

この学校評価での反省を活かし、来年度さらに向上されることを期待します。